

山行番 NO. 1591  
日時 2014. 04. 26日(土) 無風快晴  
山域 上越・谷川岳(オキの耳1977m)  
標高差 上り 谷川岳ベースプラザ(駐車場)約750m～オキの耳1977m=約1227m  
下り オキの耳1977m～天神平約1300m=約677m  
参加者 L後藤隆徳、浜道久美子、掛橋智美、ゲスト庄野 修(東京)=4名  
タイム 下土狩発4:00-中央道-関越-水上IC7:24-ベースプラザ発8:04-西黒尾根取付8:14-ラクダの背10:53-ザンゲ岩12:05-トマの耳12:30-オキの耳-肩の小屋12:59~13:20-天神平15:00-ベースプラザ-関越-赤城IC-沢渡温泉(さわわたり)旅館「山水荘」17:14(泊)

今日の山行は日本三大急登、上越・谷川岳西黒尾根からのルートだ。谷川岳というと素人考えて山岳事故のメッカのように思っていた。Gリーダーは「それはロッククライミングのノ倉沢という日本三大岩場だ」と、教えて頂き、思い込みは良くないと痛感した。

変則連休第一日目。早朝、4:00長泉を出発。4時半ごろには空も白々してきて5時となると、行き交う車の量も多くなる。真冬と違い、活動スタート時間が早い。中央道、関越道と途中事故渋滞があったが、比較的スムーズに土合口駅谷川岳ロープウェイ駐車場に到着。東京から参加のSさんと合流して、谷川岳ベースプラザを8:04発。

谷川岳登山指導センターを通り過ぎ、西黒尾根入口8:14出発。20mも上がると雪も十分残っていたのでアイゼンの装着指示。尾根に上がるまで大きく右手(北北西方向)に急斜面を上る。尾根に上がってからは南西に続く長い稜線だ。岩場までの樹林帯を2時間延々と上り続ける。今年は4月下旬としては多くの残雪がある。

かき氷が溶けてきた時のような表面が水っぽいジャリジャリの雪で、重たい。アイゼンを踏み込んでもしっかり食いつくことが出来ないで、ずるっと後退する。その分運動量が増して疲れる。有難いことにトレースがあったので疲れを軽減できるように足を運ぶ。樹林帯の所々切れ目から臨める谷川岳は悠然としている。

足場を確かめるように踏みしめながら歩き続ける。ところが、クレバスに気を付けながら歩いていたつもりだったが、トレースの足跡に自分も同じように足を置いた途端 崩れ落ちてしまった。急いで崩れない所を探して踏み込みながら上がったが、表面には見えない雪の亀裂がやたらにあり、そして深い。

今回初めて春山に挑戦する私にとって恐い経験だった。怪我をしなくて良かったが春山はそういう危険がたくさんあることを身を持って体験した。Sさんは丁度一週間前にこの西黒尾根を訪れたが、天候が悪くて撤退したそう。その時のクレバスの亀裂はもっと小さかったが随分と成長したとのこと。気候の不安定な春山は十分気を付けないといけないとしみじみ思った。

クレバスを避けるため残雪のない樹林帯を利用しながら上がる。樹林帯を過ぎ岩場に突入。



水上 I C から谷川岳



西黒尾根は急な尾根



姫二人



谷川岳の双耳峰  
トマ・オキの耳



岩場から先は遮るものがない。今日は無風、快晴。とにかく暑い。日焼け防止の為Gリーダーはタオルマスクをしている。私も真似ることにした。今が一番紫外線の強い時期だ。最初の鎖場をアイゼン装着したまま上がる。慎重に足を運ぶ。岩のはるか向こうには谷川岳が見える。

厳しい鎖場を4カ所、鎖のない岩場を下るのを要注意しながら進んでいく。ラクダの背の手前のピークにあがる急登は雪に覆われていて、四つん這い姿勢で上がる。夏の岩場状態は分からないが、雪で良かったと思った。厳しい上りだ。ラクダの背で休憩軽食をする。ここまで2時間半。とても苦しかった。長めの休憩後、後半開始。まだ、半分。

Gリーダーの足取りは栄養補給した為か調子が良い。雲がまったくない青空を目指して上っているように見える。最後の長い稜線だ。下部を眺めると岩場のごつごつが厳しさを物語ってくれている。肩の小屋まで、ひと踏ん張りだ。

Gリーダーは私たち前方を上がっていたトレースをしてくれた若者3人に追いつき、先頭の交代をする。私たちもお礼を言って、先に出る。彼らはアイゼンなしでここまで上がって来た。

彼らを抜いてから黙々と上がった先には鎖の岩場。全身で登り切り、まだまだ続く稜線を上る。重たい雪に疲れ、雪穴に細心の注意を払い、ここで止めると言えない。とにかく何が何でもトマノ耳に行くという強い気持ちでないと上れない。大げさかもしれないが自分の命に係わる事だ。

元気の良いK嬢に「先に行って、オキノ耳に行って来てね」と促す。私は自分のペースでゆっくり上ることを選んだ。GリーダーとK嬢のあと、5分位遅れながら上る。Sさんは性能の良いカメラで情報収集をしながら上がってくる。これも天気の良い今日だから出来た事で本当に感謝だ。見通しが良く、リーダーやK嬢も良く見えて、まったく不安がない。

左手にザング岩という有名な岩があるらしいが雪が多く分からなかった。一面の雪原を上がるのみ。あとどのくらい上がるのかなと青い空を見ながら思っていると左手に小屋が見えてきた。あれが肩の小屋らしい。とまもなくトマノ耳。ここはとてもあっけなく到着した。

ここまでがあまりにも長く、厳しかった尾根を思うと、最後のなだらかな雪面を歩き登頂するなんて信じられない。そして、驚いたことは登山客の多い事。皆さん、天神平尾根コースでロープウェイを利用して登山をするという事らしい。百名山なのだ。そういう私たちも休憩後下山は天神尾根経由、ロープウェイで下山した。

K嬢は頑張ってトマノ耳に行って来た。彼女は頑張り屋で偉い。私は誘われたが、体調不良（言いわけですが風邪を引いて5日目でここまで来ただけでも満足でした）でお断りした。昼食を肩の小屋で済ませ、下山開始。そこそこ降りたところで、アイゼンを外す指示。土まみれになったアイゼンを外し身支度を整えていると、いきなりK嬢が「あ！」アイゼンが斜面に落ちてしまった。外してから置き場所が悪かったらしく、滑ってしまったようだ。さて、落下位置が悪い。草付の滑りそうな斜面。上からはとても無理。下から上がり、腕を思いっきり延ばして取れそうな位置だ。GリーダーとSさんがロープを使いながらなんとか拾う事ができ本当に良かった。Gリーダーから、自分の手荷物は細心の注意をするようにという注意だ。



厳しい上り



唯一下るオジサン

大クレバス



下山途中に残雪期特有の雪穴が多く見受けられた。雪の下に水が流れていたのだ。先頭に行くGリーダーがはまってしまった。深くはないが、膝くらいまであり、膝を少々痛めてしまった。思いもかけない雪穴に閉口してしまう。何でもなければいいのだが、心配だ。

ケーブルカーの乗り場 天神平まで、下るのみ。雪質が悪いので、足を取られないように気を付けながらの下山だった。富士山並みの傾斜にK嬢「雪走りだ！」とお尻で滑っていた(笑) 今回、体調が不安でしたが、節制しながらなんとか谷川岳という百名山に登れたことに大変感謝しています。本来なら、呼吸器系の疾患の場合は絶対無理があります。ぎりぎりまで考えましたが、無理ならば途中で下山しようと思ひ参加することにしました。

しかし、結局は下山するにも体力のある内でないといけないし、下山ルートも考慮しなければいけないし、多々問題があります。安易に参加してしまい上ることが出来たので結果的には良かったのですが、近年の山岳事故は内疾患による死亡事故が多発しているようなので、自分を過信するのも問題と思った次第です。皆さんに感謝の山行でした。



雪見宴会オジサン達



姫二人  
4名の写真は  
山ガールに騙され  
た



## その他の記述（L後藤）

1. 35年前、M労山会友で東京電機大学学生だったK・M君は、一の倉沢・烏帽子岩で懸垂下降に失敗し墜死。一報を聞いてすぐ谷川岳に向かったが、既に遺体は降ろされ、登山指導センターの上がり框にシュラフに入って横たわっていた。センター前を通過時、彼がまだそこにいるような気がした。昨日のこのように・・・。我が家にも何回か遊びに来た。イイ青年だったのに・・・。
2. 西黒尾根は過去何回か上っている。急登だがブナが綺麗で展望が素晴らしい。夏は花が多い。98年、3月スキーを担いで上り、天神尾根～西黒沢を滑降した。
3. この日近くにいた登山者は我々4名と他登山者3名。そして下りのオジサンが1名だった。他、ラクダの背辺りで上部に4～5名。いずれにしても天神尾根に比べたら天地の差がある。
4. 頂上下で若い衆が「トレースはありましたか?」「あったよ」って言ったら、悔しがっていた。こんな最高の天気なのに、積極的に来れば良かったのに。
5. 一応、ザイル・ハーネスは持参したが未使用だった。
6. 肩の小屋は、まだ営業していなかった。外のトイレも開いていなかった。
7. 頂上から男女テレ・マーカーが滑降。男性は上手かったが、女性は数回転んでいた。この時期天神平尾根は天神平まで雪が繋がっていないので面白くない。そもそも雪が悪すぎてスキーにならないでしょう。
8. 天神尾根途中で雪が陥没して膝まで落ちた。体・ザックは勢い余って前進方向に飛ぶ。一瞬、激痛が走り骨折かと思った。仲間はまだ来ないので何とか脱出した。骨折は免れたが翌日のハイキングは棒に振った。以前、仲間がこれで骨折したが、この時期要注意だ。でも、意外と分かり難い。
9. 天神平上でオジサン3名、オバサン1名が仲良くテント泊で雪見宴会。毎年来ているという。登頂は明日の予定とのこと。「寄ってって。一杯やる?」でしたが、こちらも下って温泉があるので丁寧にお断りした。
10. 天神平に観光客用の無料貸し出し長靴が沢山置いてあった。LLもあったので外人客用だろう。外国では考えられない「お・も・て・な・し」ですね。
11. 天神平は春スキーで盛況。新しくなったロープウェイに初乗車。片道1230-。原価を計算すると1140-×消費税。半端だね～。ロープウェイは、ヤケにユックリだった。水上からバス+ロープウェイセットのプランがあり、1000-程度安いものを利用している方がいた。
12. 水上・湯檜曾は、今や桜が満開だった。
13. 沢渡（さわわたり）温泉・山水荘「もりや」は、8000-でまあまあ。温泉はイイ泉質で24HOK。ただ、酒が高い。
14. この旅館で以前、静岡の労山会員だった、杉山（かっちん）氏に会った。近くの岩場を毎年上りに来るそうだ。

おわり